



教 成 館

関小だより

【学校教育目標】

- よく学び工夫する子ども
- 健康で明るい子ども
- きまりを守り、助け合う子ども
- 責任をもちやりぬく子ども

「おはよう！」気持ちのよい挨拶を地域でも

10月2日（木）の朝、「一斉おはよう day」の活動を行いました。秋晴れのさわやかな朝日を浴びながら、子供たちは校門と学校周辺の12カ所のポイントに立った地域の方々や保護者の皆さんと元気に挨拶を交わしながら登校しました。あいさつポイントでは、総勢100名以上の方々が、のぼり旗や手旗を掲げて登校中の安全を確保しながら子供たちに声掛けをしてくださいました。子供たちはいつも増して元気に挨拶をしている姿が見られました。

学校では、気持ちのよい挨拶のポイントとして、「①相手を見て、②大きな声で、③軽く頭を下げて」の3点を指導しています。学校外での挨拶について、まだ十分ではない子もありますが、学校では、これからも相手に伝わる気持ちのよい挨拶について、子供たちへの声掛けを続けていきますので今後とも温かく見守っていただければと思います。



(11)

【社 会】【岩手日日 令和7年10月3日付】

心通わす「おはよう」デー

一関小・桜町中学校運営支援協議会（武田勝郎会長）は2日、「一斉おはよう day」を一関市内の両校周辺や通学路などで行い、児童生徒と地域住民ら

があいさつを通して交流を深めた。児童生徒と地域住民の交流を図ろうと、2024年度から従来の一関小側の取り組みに桜町中を加えて実施。今回は教職員や保護者、地域住民ら約100人が両校前や車両の交通量が多い交差点など計12カ所に分かれて立ち、登校中の子どもたちを見守りながら、あいさつを交

一関小、桜町中 児童生徒と住民ら

わした。

このうち同市字鳴神の一関小では、教職員や近隣住民ら8人が児童に「おはよう」「気を付けて歩いてね」など声を掛け、子どもたちは大きな声で返事をしていた。

一関小の菅原正樹校長は「子どもたちと地域の方々が互いを身近に感じること、地域を好きになってほしい」と話していた。

地域住民と児童らがあいさつを交わした「一斉おはよう day」

